

カレーで文化交流



室蘭・海星学院高校生

交流会でインターナショナルクラブの生徒の質問に答えるネパール人シェフら

室蘭・海星学院高校(堺俊光校長)インターナショナルクラブの生徒18人が14日、同校で開いたネパールの国と食文化交流会で、同国の経済状況などを学び、本格的なカレーの味を楽しんだ。

室蘭や登別、伊達、札幌にネパール料理店を6店舗展開する、ロイヤルネパールレストラングループのセレスタ・ディレ・バハドレオーナー(42)と、シェフのムケシュ・シャルマさん(24)を招いた。

ムケシュさんは「国にはエベレストがあり、国民はさまざまな宗教を信仰している」と母国について紹介。「なぜ日本に来たのですか」との質問に、「1996年(平成8年)から10年間続いた内戦の影響で経済が停滞し、ネパールでは良い仕事に就けないので来日した」と厳しい就職状況を紹介した。

生徒たちは2人が持参したネパール流のカレーを試食。ナンにルーを付けて口に運び、本場の味を堪能していた。内藤汐音さん(2年)は「カレーは想像していたよりも辛くなかった。種類がたくさんあるのに驚いた」と3種類のルーを食べ比べていた。

同クラブは毎年、室蘭工業大学の留学生と交流し、外国の文化に触れている。(池田勇人)

ネパール人シェフら招く